

資料

スポーツ推進委員の活動意識に関する調査報告

松本 耕二*・渡辺 泰弘**

1. はじめに

スポーツ推進委員は、2011年施行のスポーツ基本法第32条¹⁾に基づき、市町村の教育委員会(特定地公共団体にあっては、その長)が、スポーツの推進に係る体制の整備を図るため、社会的信望があり、スポーツに関する深い関心と理解を有し、その職務を行うのに必要な熱意と能力を有する者の中から、非常勤公務員として委嘱している。その職務内容は、自治体のスポーツ推進のための事業実施にかかわる連絡調整、住民に対するスポーツの実技指導、その他スポーツに関する指導及び助言を行うことである。この制度は1961年のスポーツ振興法にある体育指導委員が始まりで、地域のスポーツ振興を非常勤公務員に委ねた世界に例を見ないユニークな制度として半世紀以上に亘って維持されている(松本, 2018)。

スポーツ推進委員による活動は、「わずかな財政負担の中で非常勤公務員という誇りと使命感のもと、ほぼボランティアともいえる活動を通して、わが国の地域スポーツの拡大発展に大きく貢献してきた(全国スポーツ推進委員連合ホームページ)。」と記されるように、だれしものが参加したことがあろう自治会主催の運動会をはじめ、行政が主催するスポーツ大会などイベントの運営と業務補助、公的な体育・スポーツ施設などでの運動・スポーツ指導や相談、行政や自治会、地域のスポーツ団体との連絡・調整

などがある。このほかにも職責を果たすための資質向上プログラム(業務研修)やその運営業務等、年間を通して数多くの行事がある。その結果、非常勤公務員としての職務に対する報酬があるとはいえ、担当地区の日常的業務とともに相応以上の負担があり、さまざまなジレンマを抱えている内実もある。

柳沢(2019)は、全国スポーツ推進委員連合のスポーツ推進委員の在り方に関するワーキンググループの中で、スポーツ推進委員の認知度の向上やなり手不足、資質向上、報酬の基準化と評価制度などの課題を挙げ、取り組み内容や制度の改善が必要であることを報告している。また自治体により委嘱基準や選任方法の条件や数、また業務内容、報酬等が異なる実状²⁾もあり、年間の活動日数や回数、時間、さらには活動内容について、その現状は明らかにされていない。このためボランティアな活動的要素を併せ持つスポーツ推進委員の活動実態はよくわかってない。

このような折、スポーツ推進委員の現状についてスポーツ推進委員自身の活動推進および組織活性化を目的とした現状把握の調査を行う機会³⁾を得た。今回は、H市の事例となるがスポーツ推進委員の活動意識調査を行ったので活動頻度との考察結果を報告することとした。

* 広島経済大学経営学部スポーツ経営学科教授

** 広島経済大学経営学部スポーツ経営学科准教授

2. 方 法

2.1 調査対象者, 方法, 時期, 内容と配布・回収数

1) 対象者

2017(平成29)年度H市スポーツ推進委員380名である。H市では市内8地区の各小学校区に、人口比に応じて2~4人を委嘱し405名が定員となっている。そのうち欠員分と現場を担当しない学識経験者2名分を除いた数である(悉皆調査)。

2) 方法

質問紙法とした。質問紙は、H市スポーツ推進委員協議会事務局より、各地区の担当者を通して直接配布し、回収された。

3) 時期

2018(平成30)年3月~5月末までの3か月間であった。

4) 内容

調査票は、属性(性別、年齢、学歴、職業など)、資格・キャリア(スポーツ指導・世話役歴、委員歴など)、活動状況(頻度、曜日・時間帯、指導対象、内容など)、事業・研修(重要度、参加度など)、活動意識(役割重要度、自尊意識、適性評価、活動満足、継続意識など)、その他(自由記述)など全35項目で構成された。

5) 配布・回収数

配布数380部、回収数は357部(回収率93.9%)であった。そのうち、回答の不備がみられた6部を除き、分析可能な351部を有効回答(有効回答率92.4%)として扱った。

2.2 分析方法

回収されたデータは、まず、質問項目ごとの単純集計および記述統計を算出した。次に、活動頻度(過去2年間)による比較をするために、活動頻度の中央値をもとに、週1日以上(「ほ

ぼ毎日」+「週に2-3日」+「週1日」)と週1日未満(「月2-3日」+「年4-6日」)の2値に再カテゴリー化した。活動意識の各項目の測定にはリッカートタイプの尺度(例:「6.とてもあてはまる」から「1.まったくあてはまらない」)を用い、等間隔尺度とみなし計量的に扱うこととし、再カテゴリー化した活動頻度による平均値の算出と有意差検定(t検定)を施している。

3. 結果と考察

3.1 属性

1) 回答者の特性

性別は、男性(55.2%)が女性(44.8%)より若干多い。年齢は、50歳代(51.5%)が最も多く半数を占めた。次いで40歳代(23.4%)、60歳代(22.8%)で30歳代以下は1割に満たない。平均年齢は 54.0 ± 7.0 歳であった。最終学歴では、高校卒が4割(41.2%)、大卒が3割強(34.2%)であった。職業では、商業・サービス業(26.9%)、鉱業・建設業・製造加工業(20.7%)で半数を占めた。主婦(12.6%)やその他がそれぞれ1割強みられた。スポーツ指導歴は、10-14年(20.4%)、15-19年(17.1%)の順に多く、平均 14.1 ± 9.17 年(最少0年、最長40年)であった(表1)。

全国の推進委員の男女比は7対3と男性が多いが、H市の男女比はほぼ1対1でバランスがよい。また年齢では50歳代が半数であることは、調整・指導的立場であることから相応ととらえることもできるが、組織・現場活性化の課題や活動後継者育成、なり手不足の状況を鑑みると、若手の割合を増やしバランスに配慮することも必要であろう。

2) スポーツ関連資格取得状況

スポーツ関連資格取得状況は、「取得していない」が6割(60.2%)であった。取得者のみの資格は、それ以外のレクリエーション団体指

表1 回答者の特性

項目		n	%
性別 (N=344)	男性	190	55.2
	女性	154	44.8
年齢 (N=334)	30歳未満	2	.6
	30歳代	6	1.8
	40歳代	78	23.4
	50歳代	172	51.5
	60歳代	76	22.8
平均		54.0±7.00歳	
最終学歴 (N=342)	高校卒	141	41.2
	専門学校卒	27	7.9
	短大高専卒	51	14.9
	四年制大卒	117	34.2
	大学院修了	3	.9
	その他	3	.9
職業 (N=334)	農林漁業	6	1.8
	鉱業・建設業・製造加工業	69	20.7
	運輸業・通信業	21	6.3
	商業サービス業	90	26.9
	公務員	33	9.9
	団体職員	23	6.9
	主婦	42	12.6
	無職	5	1.5
	その他	45	13.5
スポーツ指導歴 (N=399)	1-4年	62	23.3
	5-9年	49	14.5
	10-14年	69	20.4
	15-19年	58	17.1
	20-24年	48	14.2
	25-29年	22	6.5
30年以上	31	9.1	
平均		14.1±9.17年	

導者 (24.4%)、地域スポーツ指導者 (21.3%) が2割程度で、競技力向上指導者 (11.0%) や都道府県の指導者資格取得者または講習会修了者 (11.0%) が1割程度であった (表2)。

スポーツ推進委員の業務にはスポーツ指導が含まれ、本市スポーツ推進委員協議会の年間事業研修プログラムには、スポーツ団体の実技講習があり地域に広げるための伝達講習会もなされているにもかかわらず資格を有していないとする割合が過半数を超えている結果は意外で

あった。地域住民の立場からすれば、スポーツ指導・推進の有識者である立場にあることからスポーツ関連資格の取得は必要ではないだろうか。

3) スポーツ推進委員歴と活動頻度

スポーツ推進委員歴は、1-4年 (31.0%) が最多で、次いで10-14年 (25.8%) の割合が多く、推進委員歴10年未満が5割強 (55.6%)、平均9.1±6.33年 (最少1年、最長33年) であった。これは、スポーツ指導年数の平均値より5年程度短く、スポーツ指導経験との相関が高かった ($r=6.92, p<.01$)。委員歴は、1期2年の委嘱期間があるなかで、10年以上の経歴者 (44.6%) が多くなっていることがわかる (表3)。

スポーツ推進委員の委嘱を受けた過去2年間 (任期期間) の活動頻度は、月1-2日が4割 (41.5%) と最多で、次いで週1日が3割 (31.5%) となっている。週2-3日 (20.3%)、ほぼ毎日活動 (.3%) と多頻度の活動者も2割程度みられた。

3.2 活動頻度別活動意識

ここからはスポーツ推進委員活動意識に関する設問に対して、尺度の素点をそのまま点数化し、全体の平均値と活動頻度別の平均値を算出した。

1) 委員就任動機

スポーツ推進委員への就任動機8項目では、「推薦されたから (4.85)」が最も高かった。次いで、「スポーツが好きだから (4.71)」、「地域・地区での関係上でやむを得ず (4.50)」、「社会貢献のため (4.17)」であった。就任は、地元地域スポーツとの関係性に配慮した他律的、消極的な動機が強くみられた (表4)。

活動頻度による比較では、週1日以上で、「スポーツが好きだから (4.86)」、「スポーツ経験を活かしたいから (3.77)」、「指導者になりた

表2 スポーツ関連資格取得状況 (複数回答, N=319)

項目	n	%	%*
取得していない	192	60.2	—
地域スポーツ指導者 (リーダー, 指導員, 上級指導員など)	27	8.5	21.3
競技力向上指導者 (コーチ, 上級コーチなど)	14	4.4	11.0
商業スポーツ施設における指導者 (教師, 上級教師など)	4	1.3	3.1
フィットネス関連指導者 (ジュニアスポーツ指導員, スポーツプログラマー, フィットネストレーナーなど)	4	1.3	3.1
マネジメント資格 (アシスタントマネジャー, クラブマネジャー)	2	.6	1.6
上記以外のスポーツ関係団体指導者	6	1.9	4.7
レクリエーションに関する指導者 (レク・インストラクター, レク・コーディネーターなど)	9	2.8	7.1
それ以外**のレクリエーション団体指導者	31	9.7	24.4
都道府県の指導者資格取得者または講習会修了者	14	4.4	11.0
保健体育教員免許取得者	8	2.5	6.3
その他	8	2.5	6.3

* 取得者 (資格を「取得していない」を除いた数; N=127) を母数とした割合

** “それ以外” とは, 前項目にある日本レクリエーション協会資格以外のことを意味する。

表3 スポーツ推進委員歴と活動頻度

項目	n	%
1-4年	107	31.0
5-9年	85	24.6
10-14年	89	25.8
スポーツ推進委員歴 (N=345)	38	11.0
15-19年	17	4.9
20-24年	5	1.4
25-29年	4	1.2
30年以上		
平均 9.1 ± 6.33年		
ほぼ毎日	1	.3
活動頻度 (過去2年) (N=340)	69	20.3
週2-3日	107	31.5
週1日	141	41.5
月1-2日	22	6.5
年4-6日		

表4 委員就任動機

項目	全体			週1日以上			週1日未満			t 値	p.
	N	平均値	SD	n	平均値	SD	n	平均値	SD		
社会貢献のため	325	4.17	1.121	169	4.18	1.153	156	4.15	1.088	.083	
スポーツが好きだから	327	4.71	1.049	170	4.86	1.022	157	4.55	1.059	7.008	**
指導者になりたかったから	324	2.62	1.151	168	2.80	1.156	156	2.44	1.120	8.163	**
スポーツ経験を活かしたいから	322	3.57	1.308	167	3.77	1.231	155	3.35	1.356	8.654	**
地域・地区のとの関係上でやむを得ず	332	4.50	1.262	171	4.46	1.280	161	4.55	1.245	.425	
地域のお世話がしたいから	323	3.95	1.065	168	3.95	1.025	155	3.95	1.110	.001	
推薦されたから	335	4.85	1.104	173	4.75	1.106	162	4.95	1.097	2.736	
なり手がなくなるとなく	331	3.94	1.519	170	3.69	1.500	161	4.19	1.502	9.119	**

※数値は, 6段階のリッカートタイプ尺度「6 とてもあてはまる」~「1 まったくあてはまらない」の素点をそのまま数量化したものである。

** $p < .01$, *** $p < .001$

かったから (2.80)」の3項目が、また、週1日未満では「なり手がなくなるとなく (4.19)」の項目において、1%水準以下で有意差がみられた。つまり、活動頻度の多い委員は、スポーツを通じた社会還元を図る動機を強くもち、活動頻度の少ない委員は、委員就任に対し消極的な動機であることがわかる。

2) 役割重要度

スポーツ推進委員の役割(職務)としてスポーツ基本法(2011)に記される3項目¹⁾の重要度について尋ねた。その結果、スポーツ推進事業実施に係わる「連絡調整(4.87)」が最も高く、次いで「実技の指導(4.42)」、「指導及び助言(4.36)」と、いずれの項目も平均値は4点を超え、重要であるとする意識がみてとれ

た(表5)。活動頻度別にみると、「連絡調整」において、「週1日以上(5.02)」が、「週1日未満(4.71)」より1%水準以下で有意に高く、その役割の重要性を意識していることがわかった。

3) 活動内容

活動内容では、「地域の組織・団体との連絡・調整(4.83)」、「スポーツ団体などの運営・世話(4.16)」、「地域の住民へスポーツに関する指導や助言(3.85)」の順に得点が高く、関わりが多かった。他方で、「障がい者へのスポーツ指導(1.93)」や「学校運動部活動の指導や世話(2.16)」への関わりが少なかった(表6)。

活動頻度でみると、週1日以上の方が10項目すべての平均値が高く、そのうち6項目で5%

表5 役割重要度

項目	全体			週1日以上			週1日未満			t 値	p.
	N	平均値	SD	n	平均値	SD	n	平均値	SD		
スポーツ推進事業実施に係る「連絡調整」	333	4.87	.785	176	5.02	.838	157	4.71	.689	12.853	***
住民に対するスポーツの「実技の指導」	336	4.42	.856	176	4.45	.841	160	4.38	.874	.723	
スポーツに関する「指導及び助言」	335	4.36	.838	176	4.42	.838	159	4.28	.835	2.254	

※数値は、6段階のリッカートタイプ尺度「6 とても重要」～「1 まったく重要ではない」の素点をそのまま数値化した。
*** p<.001

表6 活動内容

項目	全体			週1日以上			週1日未満			t 値	p.
	N	平均値	SD	n	平均値	SD	n	平均値	SD		
地域スポーツクラブ等の指導や世話	326	3.73	1.686	167	4.04	1.751	159	3.40	1.555	12.110	**
学校運動部活動の指導や世話	325	2.16	1.375	165	2.20	1.466	160	2.13	1.278	.241	
子どもたちのスポーツ指導	330	3.03	1.608	169	3.30	1.682	161	2.75	1.480	9.926	**
成人主婦のスポーツ指導	328	3.43	1.543	169	3.75	1.546	159	3.09	1.469	15.835	***
高齢者へのスポーツ指導	326	3.05	1.418	165	3.24	1.534	161	2.86	1.264	5.919	*
障がい者へのスポーツ指導	322	1.93	1.017	162	1.96	1.108	160	1.89	.918	.442	
地域の組織・団体との連絡・調整	332	4.83	1.137	171	5.11	.997	161	4.52	1.199	23.820	***
スポーツ団体などの運営・世話	332	4.16	1.491	172	4.30	1.571	160	4.01	1.390	3.162	
地域の住民へスポーツに関する指導や助言	325	3.85	1.251	166	4.16	1.231	159	3.53	1.195	21.346	***
スポーツの有識者として会議などへの出席	324	3.06	1.575	165	3.22	1.643	159	2.89	1.487	3.611	

※数値は、6段階のリッカートタイプ尺度「6 とてもあてはまる」～「1 まったくあてはまらない」の素点をそのまま数値化した。
* p<.05, ** p<.01, *** p<.001

水準以下の有意差がみられた。他方、「スポーツ団体などの運営・世話」については、活動内容として高い数値であるにも関わらず活動頻度による差がなかったことから、中心的な活動であると意識されていることが理解できる。

4) 活動上の問題（悩み事）

ここでは、推進委員としての活動を行う上で問題（悩み事）について尋ねた（表7）。平均値の高い項目では、「行事が多く忙しい（4.06）」、「活動する時間が充分にとれない（3.60）」、「家族の行事にさしつかえる（3.56）」、「業務が多すぎる（3.42）」、「仕事にさしつかえる（3.42）」と、行事・業務の多さと時間的制約と多忙さに関する項目が上位を占めた。また「地域の人に活動が理解されない（3.62）」が上位項目にあり、地域の運動会や市の主催するスポーツイベントなどに裏方業務として携わっていることへの認知や理解を欲している状況がうかがえた。

活動頻度でみると、週1日未満の方が、「仕事にさしつかえる（ $p<.05$ ）」、「何をしてもよいかわからない（ $p<.01$ ）」の2項目において有意差がみられた。このことは推進委員の活動が、本業とする仕事への負担感と、推進委員の業務とその延長上にあるボランティアな活動自体への理解、さらには、活動のための情報やノウハウの共有の不足などが活動頻度に影響した結果と推察できる。

5) 自尊意識

ここではスポーツ推進員である自身らの活動をどのように感じているかとした自尊意識を尋ねた（表8）。その結果、スポーツ推進委員は、「地域のスポーツ推進に貢献している（4.01）」、「地域住民にスポーツへの興味を持ってもらうために一生懸命になっている（3.95）」、「密接に地域との交流を図っている（3.93）」、「地域内の結びつきを促進することは確かである（3.92）」など、全体的に高く、地域スポーツ活

表7 活動上の問題（悩み事）

項目	全体			週1日以上			週1日未満			t 値	p.
	N	平均値	SD	n	平均値	SD	n	平均値	SD		
地域のスポーツ団体との関係	331	3.34	1.267	174	3.33	1.268	157	3.35	1.270	.026	
地域の住民との関係	333	3.29	1.260	175	3.26	1.286	158	3.33	1.234	.229	
スポーツ推進委員間との関係	334	2.77	1.238	175	2.79	1.261	159	2.75	1.217	.114	
家族の理解が得られない	337	2.65	1.294	176	2.55	1.204	161	2.76	1.381	2.408	
職場の理解がない	332	2.34	1.172	174	2.31	1.141	158	2.37	1.208	.239	
行事が多く忙しい	337	4.06	1.263	177	4.10	1.273	160	4.03	1.254	.265	
交流や研修の機会が少ない	332	2.48	.877	174	2.51	.838	158	2.45	.921	.341	
何をしてもよいかわからない	336	2.80	1.203	176	2.63	1.104	160	3.00	1.279	8.318	**
活動に利用できる場所・施設がない	332	2.70	1.019	176	2.66	1.006	156	2.74	1.034	.494	
経費がかかりすぎる	333	2.88	1.155	176	2.88	1.150	157	2.89	1.166	.007	
活動する時間が充分にとれない	334	3.60	1.269	176	3.51	1.256	158	3.72	1.277	2.280	
情報が不足している	335	3.04	1.108	176	3.02	1.047	159	3.07	1.175	.146	
仕事にさしつかえる	334	3.42	1.355	175	3.27	1.247	159	3.58	1.451	4.408	*
地域の人に活動が理解されていない	336	3.62	1.283	176	3.66	1.338	160	3.56	1.222	.532	
身体・体力的にきつい	335	2.92	1.141	175	2.92	1.080	160	2.92	1.208	.000	
業務が多すぎる	336	3.42	1.161	176	3.45	1.130	160	3.38	1.197	.284	
家族の行事にさしつかえる	339	3.56	1.291	176	3.44	1.321	163	3.68	1.251	2.886	

※数値は、6段階のリッカートタイプ尺度「6 とてもあてはまる」～「1 まったくあてはまらない」の素点をそのまま数量化した。

* $p<.05$, ** $p<.01$, *** $p<.001$

動の推進役としての自負をみることができた。

他方で、「地域で尊重されている (3.23)」, 「活動は理解されている (3.35)」は、他の項目に比べ低く、活動頻度による有意差もみられなかった。それ以外の項目では、週1日以上が、5%水準以下で有意に高かった。このことからスポーツ推進委員としての肯定的な自尊意識が活動頻度に有意に影響していることを窺うことができた。

6) 適性評価

ここではスポーツ推進員として委嘱を受けた自分自身の適性について、スポーツ基本法(2011)に記される文言¹⁾を設問にして尋ねた(表9)。その結果、「スポーツに対する深い関心がある (4.25)」, 「スポーツを理解している (4.09)」, 「スポーツ推進のための熱意がある (4.04)」の順に高く、その適性を評価している自負があるとすることをみてとれる。

表8 自尊意識

項目	全体			週1日以上			週1日未満			t 値	p.
	N	平均値	SD	n	平均値	SD	n	平均値	SD		
スポーツ推進委員は、地域で尊重されている	334	3.23	1.045	175	3.26	1.060	159	3.21	1.032	.187	
スポーツ推進委員であることを誇りに思う	335	3.71	1.098	175	3.85	1.121	160	3.57	1.056	5.390	*
スポーツ推進委員は、地域のスポーツ推進に貢献している	335	4.01	1.007	174	4.24	.912	161	3.77	1.050	19.299	***
スポーツ推進委員は、地域住民にスポーツへの興味を持ってもらうために一生懸命になっている	335	3.95	1.011	175	4.13	.957	160	3.76	1.037	11.120	**
スポーツ推進委員は、密接に地域との交流を図っている	336	3.93	1.010	175	4.05	.990	161	3.80	1.017	5.215	*
スポーツ推進委員の活動は理解されている	334	3.35	1.008	175	3.34	1.015	159	3.36	1.003	.039	
スポーツ推進委員が地域内の結びつきを促進することは確かである	333	3.92	1.085	175	4.04	1.058	158	3.78	1.102	4.644	*

※数値は、6段階のリッカートタイプ尺度「6 とてもあてはまる」~「1 まったくあてはまらない」の素点をそのまま数量化した。

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

表9 適性評価

項目	全体			週1日以上			週1日未満			t 値	p.
	N	平均値	SD	n	平均値	SD	n	平均値	SD		
私は、社会的信望がある	329	3.38	1.032	173	3.61	.937	156	3.12	1.074	19.606	***
私は、スポーツに関する深い関心がある	334	4.25	.951	175	4.41	.866	159	4.08	1.012	10.283	**
私は、スポーツを理解している	332	4.09	.854	174	4.19	.793	158	3.98	.906	5.005	*
私は、スポーツ推進のための熱意がある	333	4.04	.853	175	4.19	.793	158	3.86	.885	13.159	***
私は、スポーツ推進のための能力を持っている	332	3.40	.968	174	3.61	.917	158	3.18	.974	17.317	***

※数値は、6段階のリッカートタイプ尺度「6 とてもあてはまる」~「1 まったくあてはまらない」の素点をそのまま数量化した。

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

活動頻度でみると、週1日以上の方が5項目すべてにおいて5%以下の水準で有意に高いことが明らかとなった。つまり、スポーツ推進委員としての適性を肯定的に評価し、自負していることが活動頻度に関係しているといえる。

7) 活動満足と継続意欲

活動満足は、3.37（5点満点）と肯定的であると解釈できるが決して高い数値ではなかった。活動頻度でみると、「週1日未満（3.29）」の方が、「週1日以上（2.55）」より有意（ $p<.05$ ）に高かった。つまり活動頻度が少ない方が、満足感が高い結果となっている。

また、活動継続意欲においても、3.39（5点満点）と肯定的ではあったが、活動満足度と同様に、「週1日未満（3.19）」の方が「週1日以上（2.42）」より有意に高かった（ $p<.001$ ）。これも活動頻度が少ない方が、継続意欲が高いという結果となった。

これらの活動満足と活動継続意欲の結果の解釈については、さらなる分析が必要であるが、前述した活動上の問題（悩み事）や自尊意識、適性評価などの結果から鑑みて、スポーツ推進委員としての委嘱を受け、役割や使命感と自尊心とを堅持し職責果たすために事業や地域での自発的な活動にかかわることで一定の満足感を得つつも、その対象となる地域の住民からの理解が得られていないことや、個々の公私にわた

る多忙さ（悩み事）などで自身を追い詰めていくといった、自発性パラドックス⁴⁾に類似した状況にあり、週1日未満の適度な頻度で活動するほうが満足度や活動継続意欲が高くなったと説明できないだろうか。非常勤公務員としての職責としての業務遂行と地域スポーツの振興・推進のリーダーとしてのボランティアな活動とのほざまでの葛藤の結果が表れている。

4. おわりに

スポーツ推進委員の活動の現状について、H市スポーツ推進委員の活動意識調査結果とともに活動頻度による考察を報告した。わが国において60年もの永きにわたって制度として維持され、地域スポーツの振興と推進を図るリーダーの立場に、委嘱を受け、使命感をもって活動に従事するスポーツ推進委員の現在の意識を明らかにすることができた。これには個々のレベルで、非常勤公務員としての組織的業務と、地域住民を代表するスポーツリーダーとしてのボランティアな活動とのほざまに在る悩ましい問題や課題の一端を調査報告によって垣間見ることができたのではないか。今回は活動日数による考察を試みたが、スポーツ推進委員の活動満足度をいかにして高めるか、このことが継続意欲を高めることにもなる。これらが組織の活性化、ひいては地域スポーツの振興と推進に繋が

表10 活動満足と活動継続意識

項目	全体			週1日以上			週1日未満			t 値	p.
	N	平均値	SD	n	平均値	SD	n	平均値	SD		
スポーツ推進委員の活動にどの程度満足していますか	334	3.37	.685	174	2.55	.709	160	3.29	.650	4.284	*
スポーツ推進委員として活動を継続したいですか	331	3.39	.840	172	2.42	.772	159	3.19	.868	17.821	***

※数値は、5段階のリッカートタイプ尺度「5 おおいに満足している」～「1 全く満足していない」の素点をそのまま数量化した。

※数値は、5段階のリッカートタイプ尺度「5 ぜひ活動したい」～「1 すぐにでも辞めたい」の素点をそのまま数量化した。

* $p<.05$, *** $p<.001$

ることは明らかである。さらに精緻な分析を試みることによって活動満足度に繋がる要因の分析が望まれる。今後の課題としたい。

謝 辞

本スポーツ推進委員の活動意識に関する調査をすすめるにあたり、東川安雄先生（広島文化学園大学教授）に貴重な情報・資料の提供をいただいた。ここに記し謝意を表する。

注

1) スポーツ基本法 第三十二条（スポーツ推進委員）

市町村の教育委員会（特定地方公共団体にあつては、その長）は、当該市町村におけるスポーツの推進に係る体制の整備を図るため、社会的信望があり、スポーツに関する深い関心と理解を有し、及び次項に規定する職務を行うのに必要な熱意と能力を有する者の中から、スポーツ推進委員を委嘱するものとする。

2 スポーツ推進委員は、当該市町村におけるスポーツの推進のため、教育委員会規則（特定地方公共団体にあつては、地方公共団体の規則）の定めるところにより、スポーツの推進のための事業の実施に係る連絡調整並びに住民に対するスポーツの実技の指導その他スポーツに関する指導及び助言を行うものとする。

3 スポーツ推進委員は、非常勤とする。

2) 全国のスポーツ推進委員の数は、1999年の6.2万人をピークに年々減少傾向しており、2019年現在50,257人と国民のおおよそ2,500人に1人の割合である。女性推進委員は昭和60（1975）年の13.7%から増加傾向となったが、男女比は7：3と未だ少ない状況にある（全国スポーツ推進委員連合）。報酬額（年間）は、平均47,000円である。2万～

4万円とする市町村が多いが、30万円を超えるとところもみられ格差がある（都道府県スポーツ推進委員組織調査報告書、2018）。

- 3) 筆者*自身がH市スポーツ推進委員として委嘱を受けており、今回の調査は所属先のH市のスポーツ推進委員協議会において実施されたものである。
- 4) 金子（1992）は、その著書のなかでボランティアが自発性に基づいて行動するとき、なにを、どのように、どこまでするかは、原則、すべて行為者自身にかかってくるとし、その自発的行為の結果、自分が苦しい立場においこまれることになる。これを自発性パラドックスと表現した。ボランティアを行った者自身が、自分が何を誰にどこまでどれぐらい支援（活動）をしたら良いのかわからなくなり、相手より立場を弱めてしまう（自己評価を下げる）現象を言う。（ ）内は筆者。

参 考 文 献

- 金子郁容（1992）『ボランティアもうひとつの情報社会』岩波書店
- 公益社団法人全国スポーツ推進委員連合：「スポーツ推進委員とは」<http://www.zentaishi.com/>（参照2020-4-4）
- 公益社団法人全国スポーツ推進委員連合：「平成30年度都道府県スポーツ推進委員組織調査報告書」<http://www.zentaishi.com/Portals/0/overview/平成30年度組織調査報告.pdf>（参照2020-4-4）
- 松本耕二（2018）『生涯スポーツ指導者とボランティア』『生涯スポーツ実践論』市村出版、pp. 100-104.
- 文部科学省：「スポーツ基本法（平成23年法律第78号）（条文）」https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kihonhou/attach/1307658.htm（参照2020-4-5）
- 柳沢和雄（2019）「スポーツ推進委員について」第9回スポーツ審議会健康スポーツ部会（2019年3月28日）資料 https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/001_index/bunkabukai002/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2019/04/03/1414971_06.pdf（参照2020-4-4）